



月刊 おかじょうき

<http://www.okajiki.com/>

2023

12

無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	4
会員雑詠集「無人駅」	7
■例月句会結果■	
おかじょうき川柳社 11月例句会	19
川柳吟行会「ぼ」	25
十和田たてがみ川柳会 10月句会報	29
Infomation	32～

## カンテラ

むせし

数日前に「暑い暑い」と言っていたのに雪が降り出した。

「暑過ぎる」とか「雪が多い」とか言って音を上げていけば、ガザやイスラエルの人たちから「それはワガママ」と言われそう。

でも、地球温暖化は農業や漁業に直接影響を与えると同時に我々一般人にも即座に影響を与える大きな問題。

いずれも、我々人類が引き起こした問題である。

それでは、カンテラに明かりを点しましょう。

小野五郎さん、ヒガンバナって漢字で書くと彼岸花で、曼珠沙華とも言われる植物ですよ。津軽では見かけませんが、田んぼの畦に植えられている地域があつて、あれは美しいから植えているのではなく、ヒガンバナの球根に含まれるリコリンという毒を利用していているんですね。球根一つにネズミ1500匹の致死量に相当する毒が含まれてるそうで、彼岸花のあるところにはネズミやモグラが近寄らないらしい。ところで、五郎さんのこの句はそんなことと関係ないんだよね。ヒガンバナは茎の先に強く反り返った鮮やかな赤い花を咲かせ、夢からは完全に醒めているんだってこと。ん？このヒガンバナって、五郎さんのいいひとのことかも知れないぞ。

## B群

カオナシがひっそり手繰る赤い糸	夏草ふぶき
羽化やめて秋明菊は飛べぬまま	戎 踊兵
栈敷からワタシをダリに覗かれる	きささぎ彼句吾
カメメだし四拍子だし初冬だし	柳本恵子
知ったフリして水色のバスに乗る	須藤しんのすけ

## A群

十五夜にウサギへ杵をかしてやる	村上てる
生きてきた女の小波たずさえて	笹田隆志
泣きすぎて笑う笑いすぎても泣く	斎藤泰子
缶コーヒー開けて平和を飲んでる	坂本清乃
話すたび遠くへ行ってしまう人	葉 閑女
ギンナンの黄のほつりをポケットへ	吉見恵子
雨ですもの村人1になりきるわ	土田雅子
闇夜に咲いた花でしたまだ眠い	鳴海賢治
丸いからどこかで雨が降っている	ひとり静
鶴の形にサヨナラを折り畳む	三浦蒼鬼
ヒガンバナとつくに夢から醒めている	小野五郎

うっかりと消してしまった秋の夕暮れ 守田啓子  
 柿落ち葉ついに生家も無人島 熊谷冬鼓  
 叩かれた時だけ熱くなるやかん 辻井洋子

辻井洋子さん、「やかん」を辞書で調べたことがあります。か？広辞苑を引いたら「やかん」には「夜間」「射干・野干」「薬缶」がありました。「射干・野干」は、狐あるいは植物のヒオウギのこと。この句には「夜間」も「射干・野干」も似合いません。で「薬缶」ですが、湯沸かしのほかに「薬缶頭の略」という語釈がありました。した。「薬缶頭」とは、「毛が抜けきって薬缶の尻のよう」に滑らかな頭。はげあたま。(広辞苑第七版)のことでそうです。この句の「やかん」は湯沸かしなのか、それともはげあたまなのか。今度洋子さんに今度会ったらこっそり聞いてみようっと。

## C群

カ、神様あなたの為に死んでるよ	旅 男
愛したいのにポタンの穴がないのです	芝岡かんえもん
お豆腐の上で必死のフラフラ	宮井いずみ

雨蕭々裁判所横非常口

奈良一艘

泣けば済むものを集めて燃やしてる

米山明日歌

旅男さんの今回の無人駅は「オ」「カ」「シヨ」「ウ」「キ」で始まる5句。この句は2句目で、5句は何の関連もなくそれぞれ独立している。誰が「神様」の為に死んでるのか分かったところだが、それをこの句に要求するのは無理らしい。世界を見れば「神様」というのはあっちにもこっちにもいて、イスラエルにもガザにも、もちろん、ロシアにだってウクライナにだっている。

芝岡かんえもんさん、「愛」と「ボタンの穴」にどんな関係があるんだろうと懸命に考えましたが私には分かりませんでした。分からないのですが、この句を読むと何となく関係がありそうな気がして困ります。かんえもんマジックだね。

宮井いずみさん、「フラフープ」って懐かしいですね。ネットで調べたらフラフープブームは1958年だそうで、アメリカで大流行し東京のデパートで販売され始めると日本でも爆発的な人気を博したらしい。直径

1メートル位のプラスチックの輪の中に人間が入り腰を振って回すアレ、難しそうではあったことがありません。いずみさん、ふにゃふにゃの豆腐の上でフラフープをやるって至難の業でしょう。今度どこかでご披露いただきたいですね。

奈良一艘さん、「雨蕭々」って「愛燦々」とどこか似ているような気がしますね。あれ？似てない？「蕭々」を広辞苑で引くと「①吹く風、降る雨、流れる水の音がものさびしく聞こえるさま。②ものさびしいさま。」とありました。ところで一艘さん、「裁判所裏非常口」じゃなく「裁判所横非常口」っていつも「雨蕭々」なの？これって、もしかしたらミスター・マリツク並の一艘式イリュージョンなんじゃない？「川柳はイリュージョンだ！」なんてね…。

米山明日歌さんは泣きたくないんだね。だから「泣けば済むものを集めて燃やしてる」んだ。私は子どもの頃大変な泣き虫だったので、大人になってからは泣かないように泣かないようにと努力して来ました。あ、そうか。私も明日歌さんみたいにすればいいんだ。

おかじょうき川柳社会員雑詠集

# 無人駅

## ★無人駅年度賞

じゃが芋の発声練習始まるよ

熊谷冬鼓

## ★無人駅11月月間賞

せせらぎが故障してから眠れない

宮井いずみ

### 城後朱美

### 須藤しんのすけ

「じょうごあけみ・福岡県八女市」  
 バツニにも小説家にもなれなくて  
 夫を亡くしてから恋をしていない  
 とんでもない娘だとわかる諦める  
 何でもやりたくて何もしていない  
 好きなことばかりやつてもいいですか

「すとうしんのすけ・青森県弘前市」  
 知ったフリして水色のバスに乗る  
 訳もなく双子の姉が家に来る  
 左手の小指の爪もイヤらしい  
 恋人の老眼鏡はブルーです  
 ロマンストコスプレのストジブリのス

先月号の  
お気に入り

「最近どう？」って近所の猫が訊いてくる  
 熊谷冬鼓  
 「いいな。いいな。我が家の小屋に住み着いた猫は、畑に  
 おしっこしてるだけ。」

先月号の  
お気に入り

ライン読む娘一人に気を使う  
 城後朱美  
 お父さん、LINE長過ぎ。スタンプ一つで分かるから。  
 今度やったら未読スルーだからね。

### Sin

### 瀧尻善英

「しん・青森県外ヶ浜町」  
 誰ともうまくいつてない 雨 集合  
 落ち着いてください 死ぬまで生きれます  
 けえれけえれ が雪に変わる頃  
 もはや強がるための舌だけの舌だ  
 偶数の雨になったら 解散

「たきじりよしひで・青森県八戸市」  
 稲妻がバベルの塔を斬りに来る  
 思いやり転がし平和はずませる  
 稜線の向こうにあったユートピア  
 プロポーズ月の光と薔薇の園  
 甘い恋発酵すればトウガラシ

先月号の  
お気に入り

目覚めたら日曜日降っていた  
 奈良一艘  
 退職するとこんな感覚なんだろうか。

先月号の  
お気に入り

先月号の  
お気に入り

### 田中 薫

### 辻井洋子

「たなかかおる・青森県弘前市」  
 ああ空し黄蝶と戦き子等の声  
 ザーザーと火花か滝の音虫の声  
 人のことなんも知らずに猩々蠅  
 金太郎どうすれば熊令和の熊  
 夫婦位牌がジツと睨んでいるの

「つじいようこ・青森県青森市」  
 ハチの巣に聞かせて見よう子守唄  
 叩かれた時だけ熱くなるやかん  
 年ごとにいいだし出てる誕生日  
 さんま焼く二重丸です秋の音  
 とりあえず歯医者に行こう数珠捨てて

先月号の  
お気に入り

先月号の  
お気に入り

先月号の  
お気に入り

惜しげなく教えてくれた北の風  
 守田啓子  
 北の風には耳を傾けましょう

### 旅 男

### 土田雅子

「たびお・青森県五所川原市」  
 オ！ベベいざという時鳥兜  
 カ、神様あんたの為に死んでるよ  
 ジョ！おか女？ホンマのははひひひの秘  
 ウ！水臭！安つぽかつた実の道  
 キ！貴様ニンゲンでは無いナンモナイ

「つちだまさこ・青森県青森市」  
 雨ですもの村人1になりきるわ  
 通り雨がバナンスって何だっけ  
 沸騰化 雨の言い分聞きましよう  
 それからの雨の功罪問うている  
 殴り雨ヒトメタニューモ感染症

先月号の  
お気に入り

袱紗ふと不埒な笛を吹きまくる  
 奈良一艘  
 やりましたね、ふふふ。拭きまくるじゃなくて良かった。

先月号の  
お気に入り

先月号の  
お気に入り

## 夏草ふぶぎ【なつくさふぶぎ・青森県青森市】

終点で迎えてくれた活断層  
カオナシがひっそり手繰る赤い糸  
何色の巣を編もうかと笑う蜘蛛  
もみじハラリ患う狐の背にハラリ  
シリウスとLINE交換できました

先月号の  
お気に入り

## 奈良一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

右顎にエヴィット・ピアフがちよろり  
北を見ろ！西を見てみる！上級天使  
雨蕭々裁判所横非常口  
さらさらと彷徨っているさらし首  
静い静い to be continued

先月号の  
お気に入り

空蟬の膝の角度のとくさ色 宮井いずみ  
とくさ色(木賊色)…ですか。正に絶妙。うむ。

## ひらく【ひらく・青森県蓬田村】

お肉屋のダイナロコック異星人  
熱々のカボチャコロッケから秋波  
津軽びいどろ山背をそつと隠し持つ  
ダーリンと猫の躰が悩ましい  
肉厚の唇からジェットストリーム

先月号の  
お気に入り

## まみどり【まみどり・青森県黒石市】

気持ちよい朝をいただく客らしく  
海苔納豆梅干卵御当地版  
サービスで分かれてしまう旨いもの  
時差ボケが役に立ってる電話番  
体力も運も知力も欲張らない

先月号の  
お気に入り

むずかしい事なんてないただ寝るの 田中薫  
わかってるわよ、ただすんなり眠りに入れるからです。

## 鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

闇夜に咲いた花でしたまだ眠い  
円安が続くリンゴの皮をむく  
暑い日はいやです昭和かれすすき  
おとうとはうでたてふせをじゆうにかい  
青いリボンに太陽が降りそそぐ

先月号の  
お気に入り

唐揚げが唐揚げだった頃の海 奈良一艘  
理屈ではない。この言いまわしがおもしろい。

## ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

雲の形変わる心を読むように  
丸いからどこかで雨が降っている  
しとしとと降る雨ならば引き受ける  
優しさをまだ覚えてる鍵の束  
病院にシマウマキリンヌーガゼル

先月号の  
お気に入り

ひっそりとポストの中の白いヤギ 夏草ふぶぎ  
この頃、手紙が来ないなと思っていました。

## 三浦蒼鬼【みうらそうき・青森県黒石市】

低温火傷する長男の定義  
羊を数え終えたら人間に戻る  
鶴の形にサヨナラを折り畳む  
櫛の歯がポロポロ泣いていいですか  
新しいガチャ転がして再起動

先月号の  
お気に入り

目覚めたら日曜日が降っていた 奈良一艘  
最近超多忙で、朝一瞬間日がわからなくて飛び起きる時  
がある。駆け足の人生が続きます。

## 宮井いずみ【みやいいずみ・大阪府大阪市】

いぶりがっこカリカリ猫砂も値上げ  
千切りのキャベツあわわな予告編  
主語述語いりこのにおいする訓示  
デリートデリート濡れ雑巾を握りしめ  
お豆腐の上で必死のフラフープ

先月号の  
お気に入り

君が代三唱またまた年金日 まぎこ  
二か月に一度の年金日。これでは少なすぎるけど毒をこ  
めて、お国へ感謝。

村井規子【むらいのりこ・青森県大鰐町】

明日も雨転けたつていい行く所  
人生の皺は間に合う五十代  
国民がみんな秀才怖いなあ  
家系図についた味噌なの私なの  
笑う事私のオキシトシンである

先月号のお気に入り

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

遠くから母の呼ぶ声「ごはんだよ」  
夕焼けに背中押されて帰る道  
駄菓子屋で握りしめてた五円玉  
チリンチリンアイスが呼んでいる夏日  
ビー玉に石蹴りめんこやったよな

先月号のお気に入り

自分でも支えきれない皮下脂肪  
私にもあるあるー！！  
まみどり

村上てる【むらかみてる・青森県青森市】

十五夜にウサギへ杵をかしてやる  
名月を待ちきれずに咲く月見草  
一夜干し生干しのイカに舌つづみ  
夜勤あけ明の明星に迎えられ  
夜なきそば姉と二人でかけつける

先月号のお気に入り

母の愛に絡め取られて檻の中  
二人姉妹の末子。本当にあまく愛の中に育てられ同感でした。  
村上あつこ

守田啓子【もりたけいこ・青森県三沢市】

リクエストは入道雲の子守唄  
さざ波に成り損なつてしまつたわ  
うっかりと消してしまつた秋の夕暮れ  
雨らしい雨にもなれずこうしてる  
その時はさざ波ほどの音でゆく

先月号のお気に入り

帳尻が合つてしまつたサウナラ  
まだ帳尻が合いそうもないなあ、私。みんなに迷惑かけて・・・  
熊谷冬鼓

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

十二月の森でなぞなぞを解いている  
カモメだし四拍子だし初冬だし  
置き配で届いた冬の理不尽さ  
途中から編み目のゆるむクリスマス  
百均の棚に並べておくドレミのド

先月号のお気に入り

終わったと思つこれからだと思つ  
いつもそう思つこと、同感です。  
守田啓子

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

小雨ふる一年だつた破れ傘  
紫式部の白ばみ始めまた髪も  
ノックしても固い返事だ三日月だ  
ギンナンの黄のほつこりをポケットへ  
パレスチナ問題いちばんの罪は誰

先月号のお気に入り

葉閑女【ようかんによ・青森県青森市】

極月も葉祥明の青という  
話すたび遠くへ行つてしまふ人  
蟻螂の斧でもいいさドスンドスン  
晩秋か初冬かもめている親子  
月青しそろそろ魔女になる時間

先月号のお気に入り

真っ白な壁にぐざりと刺す話  
夫君のご不幸、ぐざりと刺さりました。私にとつては同級生ですから。  
まきこ

四ツ屋いずみ【よつやいずみ・北海道札幌市】

連休なか日あんバタになつてやる  
八方美人すぎる糸切り歯かける  
副鼻腔ビターの溜まるCS戦  
玉手箱開けるなかれと船長が  
ネックレスちぎれ落ちえんがちよつチョ

先月号のお気に入り

米山明日歌【よねやまあすか・静岡県長泉町】

新しい道も男も薄暗い  
省略をされた案山子に囲まれる  
跳び箱を明日のよめぬ高さまで  
泣けば済むものを集めて燃やして  
翻るもののひとつが赤すぎる

先月号のお気に入り

安藤なみ【あんどうなみ・愛知県瀬戸市】

本物のプーチンは五人目である  
神殿のなかで宮殿の暮らし  
あたふたと紅葉が積もる雪の上  
ゆるやかに時は流れて未だ平和  
戻れないところでおが屑に出会う

先月号のお気に入り

辛いならどこ吹く風を送りましょう  
その手がありましたか。 辻井洋子

岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

院長の背中は何り出しカルテ  
母さんをミシンの音を囲んでた  
マスク焼け一番出汁で煮含める  
常識が通らぬ秋蚊の迷走  
ペーパーウェイトにする胆石のももいろ

先月号のお気に入り

戒踊兵【えびすようへい・青森県外ヶ浜町】

大袈裟に振り向く癖の黒揚羽  
キアゲハの折れそうな足折れている  
白線の内側で死ぬケモノたち  
海を呑むアオバト森へ透き通る  
羽化やめて秋明菊は飛べぬまま

先月号のお気に入り

小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

夕焼けの入道雲と飲んでいる  
国境をさまよっている黒トカゲ  
白鳥座デラシネの海になだれ込む  
渋柿はラピスラズリを隠し持つ  
ヒガンバナとつくに夢から醒めている

先月号のお気に入り

きさらぎ彼句吾【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

声の温度も笑みの湿度も一字空け  
山頭火と破く定形の満月  
栈敷からワタシをダリに覗かれる  
浮力を喪った君を失った  
はこべにもオーラ薔薇にも嫉妬心

先月号のお気に入り

挨拶が帰ってこない境界線  
挨拶し合うだけで消えちゃう線なのにね 夏草ふぶき

金瀬達雄【かなせたつお・富山県高岡市】

成長はいつあったのか悩む秋  
国境に子羊集め愛の川  
この国の埃はどこだ虫メガネ  
動物園 園児よ仲間に入れてくれ  
湖底から浮上 イエスを追いかける

先月号のお気に入り

熊谷冬鼓【くまがいとうこ・青森県青森市】

木枯しに急かされ食器入れ替える  
結局はそば降る雨のせいにする  
先延ばしした結論に縛られる  
柿落ち葉ついに生家も無人島  
その時はその時カーテン揺れている

先月号のお気に入り

内出血だから気づかれない苦よ  
ソクソクっとしました きさらぎ彼句吾



斎藤泰子【さいとうたいこ・秋田県大館市】

丸文字のような家族で飽きつぱい  
平熱に戻ればもとの木偶の坊  
泣きすぎて笑う笑いすぎても泣く  
煩惱を横からちよつと突いてみる  
いい機会 龍の鱗もなでてみる

先月号のお気に入り

ここからはササクレだった区域です  
それでも明日歌さんは行くんですね!!  
米山明日歌

坂本清乃【さかもときよの・青森県蓬田村】

団体到着まずはトイレ道の駅  
里山の色づく頃の漬け物石  
月欠ける様にせんべい食べる癖  
炊飯器スイッチ入れる生きるため  
缶コーヒー開けて平和を飲んでる

先月号のお気に入り

空蟬の膝の角度のとくさ色  
なにかの事件か、事故によって抜け殻のようになった自分の  
膝の角にできた木賊色のアザとは何と美的な表現でしょう。

嵯峨山登【さがやまと・佐賀県佐賀市】

楽園に籍置いたまま父の宿題  
質量保存みんなみいんなヒトになる  
悩んでるタール人ですあちちちち  
トラックを人間にする飾り付け  
玉子から生まれた王子痛くない

先月号のお気に入り

殺し方①アルデンテ②塩叩き  
料理でしょうか復讐でしょうか。  
旅男

笹田隆志【ささだたかし・青森県青森市】

意地張って通す男と女の地  
雪螢を守る煙たがられても  
烏口を三度叩いて風信帖  
椰子の実の吐息を吸って海の鬱  
生きてきた女の小波たずさえて

先月号のお気に入り

無人駅は自由な発表の場です。  
未発表作品5句をお寄せください。  
また、お手元の最新号から  
お好きな作品とそれに対する  
簡単なコメントもお寄せください。

芝岡かんえもん【しばおかかんえもん・神奈川県横浜市】

血抜きされ逆さにされている未来  
目刺しです自由を考えています  
わけあつてまだ素うどんに戻れない  
愛したいのにボタンの穴がないのです  
覚悟をそつと冷凍庫から出してみる

先月号のお気に入り

スマホやタブレットで投句する↓  


むかし【むかし・青森県蓬田村】

プテラノドンと将棋指してるシン・ゴジラ  
脳みそが軽くてスキップできません  
浦島次郎とLINEしている銀太郎  
月影の弥勒菩薩にアイライン  
銀座の月を指鉄砲で撃ち落とす

先月号のお気に入り

無人駅は自由な発表の場です。  
未発表作品5句をお寄せください。  
また、お手元の最新号から  
お好きな作品とそれに対する  
簡単なコメントもお寄せください。

どろしても

11月4日(土) 午後1時～ アウガ5F小会議室

▼出席者(12名)

守田啓子・熊谷冬鼓・きさらぎ彼句吾・葉閑女・Sin・渡邊こあき・夏草ふぶき・むさし・原口健二・笹田隆志・奈良一艘・小野五郎

▼投句者(20名)

安藤なみ・旅男・嵯峨山登・吉松澄子・宮井いずみ・城後朱美・まみどり・米山明日歌・村井規子・田中薫・岩根彰子・柳本恵子・戎踊兵・芝岡かんえもん・須藤しんのすけ・村上あつこ・鳴海賢治・一帆・郷田みや・坂本清乃



おかじょうき川柳社：誌上句会

0 番線  
- OKAJOKI ZERO LINE -

課題と選者(2句詠・共選)

題：『名』

選者

暮田真名 (東京都)

2/29 〆切

Sin (青森県)

投句方法

※誠に申し訳ありませんが、郵送・FAXでの応募は受け付けておりません。

【ウェブサイトからの応募】

<http://okajoki.com/>へアクセスし、「投句する」→「0番線」を選び、作品応募フォームから必要事項を記入して送信してください。



【メールで直接送信】

メール本文内に「作品(2句まで)」「郵便番号」「住所」「氏名または雅号(ふりがな)」「電話番号」を明記し、件名に「0番線」として、守田啓子宛にメール送信してください。<送信先アドレス：[moriko@okajoki.com](mailto:moriko@okajoki.com)>

投句料(※おかじょうき川柳社会員は無料です。)

1,000円(発表誌呈) \*発表誌の送付をもって、投句料受領したものとさせていただきます。

◆振込先：郵便振替 No.02280-6-43112 口座名 おかじょうき川柳社

賞

特選の方に青森県特産品を贈呈。

席題『窓』

青森県三沢市 守田啓子選

【佳作】

知らんぷりしてたら開いた恋の窓 葉 閑女  
 ガラス越しぐずずって泣いているカラス 夏草ふぶき  
 裏窓の下でいちやつくバイオリン 夏草ふぶき  
 開かぬ窓誰か来るのを待っている 渡邊こあき  
 戦場の涙サッシを垂れ下がる 原口健二  
 こむら返りはするし窓は嵌め殺し むさし  
 窓枠に張りついているパスワード 熊谷冬鼓  
 雪になりそうで柩の小窓閉じてやる きさらぎ彼句吾  
 窓越しの月の明かりを抱いて寝る 原口健二

夕焼けがトイレの窓を厚化粧 笹田隆志

時を破って柩の窓が開いていた むさし

乱れても許してくれる窓のこと S i n

気に入らぬ窓だ爪切る音がする 奈良一艘

曼珠沙華咲かせて窓のない廊下 熊谷冬鼓

爪先まで小窓をつけるさみしくて きさらぎ彼句吾

【秀逸】

窓の蔓エンドロールはまだ続く 渡邊こあき  
 コスモスが窓から入ると言っている 小野五郎  
 窓枠が外れるそんな迷いかた 夏草ふぶき

【特選】

寝たぎりの窓からタナトスが覗く 奈良一艘  
 1 死ぬまでつきまとう死への恐怖

席題『窓』

青森県青森市 熊谷冬鼓選

【佳作】

何を見てるのかライオンが覗いてる 笹田隆志  
 夕暮れの窓から見える笑い声 原口健二  
 開かぬ窓誰か来るのを待っている 渡邊こあき  
 裏窓の下でいちやつくバイオリン 夏草ふぶき  
 減税の身も蓋もない冬の窓 守田啓子  
 コスモスが窓から入ると言っている 小野五郎  
 爪先まで小窓をつけるさみしくて きさらぎ彼句吾  
 ぐにやぐにやの窓まだ恋をする気です 守田啓子  
 気に入らぬ窓だ爪切る音がする 奈良一艘

トルコ行進曲と悲鳴が聞こえる窓がある S i n

月夜から淡谷のりこの窓が降る 奈良一艘

こむら返りはするし窓は嵌め殺し むさし

時を破って柩の窓が開いていた むさし

シヨウウィンドーの嘘が乱反射する西日 きさらぎ彼句吾

窓枠が外れるそんな迷いかた 夏草ふぶき

【秀逸】

秋の夕暮れ窓辺には清少納言 守田啓子  
 雪になりそうで柩の小窓閉じてやる きさらぎ彼句吾  
 寝たぎりの窓からタナトスが覗く 奈良一艘

【特選】

窓の蔓エンドロールはまだ続く 渡邊こあき  
 1 窓をふさぐ蔓と語る作者、ここからが長いのだ。

# 宿題『挟む』

青森県外ヶ浜町 Sin 選

## 【佳作】

約束に挟んだままの小指です  
 体温計挟んだままで戦場に  
 尻尾はしゃべる誰も口を挟まない  
 日記からずり落ちてくるろくでなし  
 絵日記のどのページにも夕日の絵  
 会議室フリル挟んでみましようか  
 暴発を恐れて閉じるコッペパン  
 骨盤に挟まれていた頃の月  
 甘噛みをくり返すオワコンの右脳  
 ムーミン谷に挟まっているシンゴジラ  
 裁ち鋏たとえば男のYesterday  
 邪な夜を挟んで深海魚  
 詩集の中の密かな場所の虎挟み  
 ぷにゅとむにゅに挟まれていた恍惚

米山明日歌  
 小野五郎  
 安藤なみ  
 守田啓子  
 須藤しのすけ  
 郷田みや  
 安藤なみ  
 夏草ふぶき  
 奈良一艘  
 小野五郎  
 奈良一艘  
 一 帆  
 む さ し  
 戎 踊兵

喉につまれ力うどん（善意から）

女偏残り時間を挟んでる  
 挟まれた状況把握して海へ  
 アルバムの血は青く深く死んでゆく  
 日記に挟む擦りむけた生の赤  
 長女という立場と足りない現実と

## 【五客】

挟んだ女が喚く濡れる渴く  
 挟まれてなきや生きていけない波間  
 指はさむタマゴクラブの五頁目  
 抱く前も抱かれた後もピンセット  
 押し花になってしまった右乳房

【人位】  
 正直と馬鹿正直に挟まれる

【地位】  
 右耳の洗濯バサミ取ってくれ

【天位】  
 しおり紐愛を試したことがある  
 ♪ 愛は失敗するものです。

旅 男  
 坂本清乃  
 鳴海賢治  
 旅 男  
 旅 男  
 村井規子  
 米山明日歌  
 田中 薫  
 須藤しのすけ  
 まみどり  
 一 帆  
 戎 踊兵  
 む さ し  
 須藤しのすけ

# 宿題『古』

青森県弘前市 奈良一艘選

## 【佳作】

ままごとの居間に畳があつた頃  
 鯉節削り器どうか生き残れ  
 草紅葉始祖に善蔵洋次郎  
 新人類そう呼ばれた頃もあつたつけ  
 理科室がシエルターだった青年期  
 古着だけ喋り続けたお葬式  
 陽が落ちた原っぱですがいいですか  
 エンジンが古くなったし羽も濡れたし  
 古書店が消える炬火また消える  
 紙風船で王政復古するなんて  
 断捨離が進まないのよピンポンパン  
 膝、顔と一緒に錆びている机  
 母さんは姥捨山の八合目  
 キセル吸う黄ばんだ指の先に蛍

須藤しのすけ  
 村井規子  
 葉 閑女  
 まみどり  
 夏草ふぶき  
 芝岡かんえもん  
 守田啓子  
 小野五郎  
 嵯峨山登  
 笹田隆志  
 まみどり  
 む さ し  
 一 帆  
 夏草ふぶき

肌寒や蜂の古巢の五つ六つ

古城から国旗いえ干柿をつるそ  
 下心で軋む前方後円墳  
 飛行機が浮くなんてねと機内食  
 合体はするけど古い箱の中  
 ナツメロが錆びた海馬をノックする

## 【五客】

空がまだ赤くなかつた頃の雪  
 ひまわり畑の履歴 古戦場の履歴  
 自尊心を中古の空に置いて逝く  
 糠床の奥の奥から関ヶ原  
 あなたの椅子にあなたのいない四季累々

## 【人位】

骨こつケアコンドロイチン古代米

## 【地位】

塹壕を掘ってるオールド・ブラック・ジョー

## 【天位】

その海は縄文の羊水である

♪ 羊水ですか。そうでしたか。納得。

葉 閑女  
 田中 薫  
 S i n  
 夏草ふぶき  
 郷田みや  
 熊谷冬鼓  
 S i n  
 きさらぎ彼句吾  
 きさらぎ彼句吾  
 きさらぎ彼句吾  
 宮井いずみ  
 小野五郎  
 守田啓子

# 宿題『自由詠』

青森県逢田村 むさし選

## 【佳作】

ドレミドレミソミドレミレイスラエル  
 ト音記号は金木犀の香りです  
 石段が集まって来る月の道  
 大空に死ぬまでずっと浮いてやる  
 振れてる縁を解けぬ悴む手  
 雑踏をによきによきと来る潜望鏡  
 生乾ぎの深夜放送から吐息  
 ふしだらな指でワサビを摺り下ろす  
 八十四くらいでいいわ数珠しまう  
 満月に絡みついてる女郎蜘蛛  
 前世では姉妹だったか柿二つ  
 鮮血と同じ色した薔薇を摘む  
 賞味期限近いと膝がつぶやいた  
 糸の先手繰り寄せれば飛ぶ火花

S i n  
 吉松澄子  
 戎 踊兵  
 芝岡かんえもん  
 渡邊こあき  
 戎 踊兵  
 原口健二  
 戎 踊兵  
 葉 閑女  
 小野五郎  
 渡邊こあき  
 須藤しのすけ  
 坂本清乃  
 渡邊こあき

枯葉舞う媼の中の早乙女に

葉 閑女

やめましたティクトックで吐くとぐろ

夏草ふぶき

太ももに挟むプーチン死亡説

S i n

いまならなみだは下取りしてくれる

S i n

開いたままの傷口それがそうあなた

きさらぎ彼句吾

カタカナならアイシテルも言えるかな

柳本恵子

## 【五客】

「赤ちゃんが乗ってました」のステッカー

須藤しのすけ

目を閉じて見えないものを探す秋

吉松澄子

仏間では内水氾濫おきている

小野五郎

来る冬を舐めれば星の舌触り

米山明日歌

偶に会いたくなる伸びきったゴム紐

きさらぎ彼句吾

## 【人位】

あとがきは泣きたいくらい冬の白

柳本恵子

## 【地位】

鯛臭が漂うガザ地区包囲網

奈良一艘

## 【天位】

どうしても最初がグーになりません

郷田みや

❶ 眠れぬ夜ってこんな感じかと…。

## 参加者募集

# 川柳吟行会「ぽ」

# 課題「叩く」

私の句「思春期の娘叩いたのは他人」わかりづらい句を、二人の方が選んでくれた。叩いたのは他人ではなく、母である私である。言う事を聞かない、不登校の娘に腹が立った。あの頃、夫婦仲も悪く、娘二人を姑に任せ、仕事に熱中していた。不登校になったのは、私の責任、母親失格だと思っていた。そんな自分を正当化したかったのか、こんな句を書いた。

今、娘は、結婚して、一児の母。一生懸命に母親を頑張っている娘を誇りに思う。

やり直せない子育てのむずかしさを感じ、娘を叩いた手の痛みが、未だに残る。(朱美)

## 【10点】特×2・佳×6

性の多様化バナナの叩き売り

渡邊こあき

【いずみ】毒のある川柳だ。性の多様化という深刻な問

## 【9点】特×4・佳×1

シャドウボクシング愛しすぎたと思う時

小野善江

題をバナナの叩き売りと言ったのけた大胆さを評価した。【冬鼓】叩き売りの口上に乗せられるように次々と告白者が増えてきたと読んだ。多様化と叩き売りの組み合わせが大胆。【柳本恵子】世の中にはいろんな人がいるんだよ。みんなまとめてバナナの…。【吉見恵子】今の事象と「バナナの叩き売り」の取り合わせが面白い。注目を集めているという表現かな。【啓子】これも人類の進化なのだろうか…。【州花】こう言ってしまうたら身もフタもない気がするが要するに好きな人と暮らせばいい。生産性なんて当人が考えること。【文音】今様の性と昔の捨て鉢のようなバナナの叩き売りを思い出し、哀愁を覚えました。【ふぶき】複雑な問題にあえて軽快なバナナのたたき売りを持つてきたところで救われるように思えました。

【柳本恵子】愛しすぎるなんて、なんてロマンティックなんでしょう。【啓子】とても切ない。愛に上限なんかないはずなのに・・・【まあこ】いいですねえ！ワカルヨ〜！【五郎】着想がユニーク。はつとさせられる。【達雄】私は異性にされたことはないと思う。激しい愛!?

【7点】特×2・佳×3

戸籍簿に叩き落とした痕がある 月波与生

【かなえ】どんな理由でそうなったのか。ドラマチックな仕立て方が上手い。ズキンと痛かった。【こあき】どんなドラマがあったのでしょうか。もしかして離婚とか？【しんのすけ】旧家や豪家豪族の小説によく出て来ますね。【いずみ】「叩き落とす」との一語で家族の葛藤が伺える。【五郎】謎めいた作り方に引かれる。

【6点】特×2・佳×2

柏手の指の間にある迷い 高木まあこ

【しんのすけ】人は悩み、戸惑い、迷いながら、自分を信じるために神様の前で柏手を打つ。諦めきれないグダグダ感に共感。【ふぶき】指の間に迷いを見つけたのは発見だと思いました。しかも柏手を打つ一瞬に色々頭を巡るものがあるのですよね。【隆志】神棚に手をあわせて

しだいにしごかれてはつきりと成長していくものなのです。【達雄】作者・私・日本もいい音出してた青い頃。【与生】青だと漠然とし過ぎて句意が弱くなると思う。では何がいいのかと問われても困るが。

コツコツと雨音今日の私は半透明 柳本恵子

【与生】半透明という措辞は雰囲気優先に思えて気に入らないが消去法で残ったので。【啓子】ダメだったことを反省のできる私は「半透明」なのだ。【五郎】言葉の取り合わせの妙。

【4点】佳×4

手帳買う師走に肩を叩かれて 月波与生

【州花】ジングルベルを聞くときは手帳を買うとき。【隆志】毎年師走になれば新しい手帳を買おうとせかされま

【3点】特×1・佳×1

皿小鉢叩いてまたね日々またね 小野善江

るたびにいつも迷いがよぎります。【規子】納得のいく賞賛ばかりじゃない。

【5点】特×1・佳×3

エンターキー叩いて叩いて居なくなる 熊谷冬鼓

【吉見恵子】理想です。こんな風にこの世を去りたいもの。叩いて叩いて」の遠のくようなリフレインが良かったです。【朱美】残業して仕事完成した書類は上司の元へ。【柳本恵子】カーソルも迷子になります。【しんのすけ】何度も確定するから…全て貴方の所為です。

【4点】特×2

思春期の娘叩いたのは他人 城後朱美

【さち】状況がよく分からないですが、諫めてくれたことに感謝なのか理不尽な暴力なのか迷いつつも面白く感じました。【規子】私が子供のころは、町内に必ずひとり親より怖い大人がいて私も良くおこられました。

【4点】特×1・佳×2

叩かれていい音出す派だった青 守田啓子

【隆志】青春時代とは、青年時代とは、叩かれ叩かれて、

【達雄】作中主体は、小鉢？家族？時？一体誰に言っているのか？さっぱり分からないがよく分かる。【かなえ】ウィットに富んでいる。「またね」のリフレインが叩いている感を出していて面白い。

志功なら大きな西日殴るんじゃね 須藤しんのすけ

【善江】東洋的でエネルギーあふれる志功「わだばゴツホになる」は有名な言葉ですね。闊達自在な志功ならありです。【まあこ】スケール特大。「殴るんじゃね」が効いています。

言葉キツ！ 鈍感力で打ち返す 熊谷冬鼓

【朱美】あるある。聞こえない振りをして、しばらく知らんぷり。当人は、答えが返って来ないから戸惑っている。おもしろい句。【こあき】言葉の暴力は痛い。鈍感力で対抗はいいね。

【2点】特×1

A-1の答え賢く蚊を叩く 吉見恵子

【彰子】問答体のAIの答えが問、答が蚊を叩く、それも賢く叩く。ダメ押しをしているところが、当に川柳だと思った。

窓たたく月光 ティンカー・ベルに 吉見恵子

【州花】読書の楽しさを知ったのはピーターパンが始まり。窓たたく月光の硬質さが素敵。

太鼓好き匿しはしない鬼の裔 吉田州花

【文音】太鼓好きで何と鬼の裔とは大胆な句だと思えます。太鼓は私も大好きです。「草いきれ吸って私は鬼の裔」という俳句を思い出しました。

【2点】佳×2

クラシック拍手が一步出遅れる 柳本恵子

【朱美】終わりがわからない。拍手して恥をかいた。【かなえ】感動の余りやよく分からなかったりで、私もあります。

肩たたき券使われぬまま萩が散る 滋野さち

【冬鼓】「使われぬまま」が切なすぎる。【こあき】「萩が散る」が使うはずだった人の逝去を連想させました。

約束の今はまぼろし鉦叩き 笹田かなえ

### 十和田たてがみ川柳会十月句会

○日時 10月21日(土)

○会場 十和田労働福祉会館

○参加者 木村奈生美・久保あざみ・斉藤蛙井・

佐藤まさあき・瀧尻善英・福田芳記・村上昌子・

高田幸柳

○投句者 磯島雅男・城後朱美

■席題『鼻』 久保あざみ 選

【平抜き】

クラス会鼻持ちならぬ奴を避け	佐藤まさあき
鼻高な男背中に塩をまく	高田 幸柳
お隣はカレーのような路地の店	佐藤まさあき
不安です下駄の鼻緒が切れそうで	福田 芳記
マスクなし鼻がやつと顔を出し	斉藤 蛙井
目も耳も鼻も達人な幸を謝す	木村奈生美
深呼吸鼻から酸素入れている	木村奈生美
鼻メガネ女房のシワが多く見え	斉藤 蛙井
自画像の鼻はプライド高いまま	木村奈生美

【吉見恵子】約束はまぼろしとなった。ひたすらに鉦を叩いて念仏を唱えるだけの現実がある。物語性を感じさせる。【さち】準絶滅危惧種の鉦叩きと消えてしまった約束と。切ない。

叩かれたら叩き返すよ曼珠沙華 笹田かなえ

【善江】曼珠沙華の生命力に感服いたします。【冬鼓】こんな強さが羨ましいとも思うが、多分私は無理。

【1点】佳×1

撥合わせ夜風に殴りかかっている 岩根彰子

戸から戸へノックして行くクラスたち 渡邊こあき

「アレ作れ」鯨を叩いて久し振り 吉田州花

打楽器が頭の中でダンスする 夏草ふぶき

没の句に尻叩かれて佳作産む 村井規子

絶望と日々殴り合う愛し合う 金瀬達雄

いそいそと百叩きの刑受けに行く 小野五郎

肩叩きが下手ならスマホ取り上げる 笹田隆志

芥川「鼻」であばいた人のさが 福田 芳記

鼻つ柱強いカミさん ボクうしろ 佐藤まさあき

【秀逸】

立派でも鼻の穴泣く切れる息 村上 昌子

鼻の効く記者に期待のいいニュース 村上 昌子

【特選】

褒められて天まで届く俺の鼻 瀧尻 善英

■席題『鼻』 瀧尻 善英 選

【平抜き】

不安です下駄の鼻緒が切れそうで	福田 芳記
鼻つ柱強いカミさん ボクうしろ	佐藤まさあき
タマ達が朝な夕なと嗅ぎに来る	村上 昌子
鼻メガネ女房のシワが多く見え	斉藤 蛙井
愛犬の鼻はしつとり元気だね	久保あざみ
深呼吸鼻から酸素入れている	木村奈生美
鼻につくそれでもガマン夫婦仲	斉藤 蛙井
クラス会鼻持ちならぬ奴を避け	佐藤まさあき
【秀逸】	
要注意鼻にかかった願い事	高田 幸柳

鼻の効く記者に期待のいいニュース 村上 昌子

【特選】

自画像の鼻はプライド高いまま 木村奈生美

■宿題 『反抗期』 佐藤まさあき 選

【平抜き】

反抗期私もあった苦笑い 久保あざみ

反抗期親父の重さ掛けてみる 斉藤 蛙井

反抗期拗ねて学んだ親父の背 斉藤 蛙井

苛立ちが起こり始める反抗期 木村奈生美

親になり子の思い知る反抗期 村上 昌子

閉じたまま開いていない反抗期 高田 幸柳

うちの子は震度2ほどの反抗期 福田 芳記

仏前にひたすら詫げる反抗期 高田 幸柳

本人は揺れて不安の反抗期 福田 芳記

親看取り五十男の反抗期 城後 朱美

あの時の積木崩しを見た反旗 木村奈生美

【秀逸】

反抗期ハシカの後にやったはず 高田 幸柳

災害が続く自然の反抗期 木村奈生美

【特選】

とんがった思春期 痛い薔薇の棘 瀧尻 善英

■宿題 『バランス』 村上 昌子 選

【平抜き】

栄養のバランスよりも腹八分 城後 朱美

崩壊のバランス耐えた共白髪 木村奈生美

安産論沖繩だけに重しつけ 斉藤 蛙井

バランスの取れた生き方難しい 久保あざみ

子どもだなすぐに覚えた一輪車 福田 芳記

気を遣い派閥の顔立て組閣する 佐藤まさあき

中傷に動じることないヤジロベエ 高田 幸柳

アンバランスな男のほうが面白い 城後 朱美

躁と鬱うまく操り恙ない 瀧尻 善英

ミサイルでバランスとつてる平和論 斉藤 蛙井

子育ては褒める叱るのバランスで 高田 幸柳

後期高齢 平均台を歩くよう 瀧尻 善英

【秀逸】

夫婦独楽ボケとツッコミいいコンビ 瀧尻 善英

バランスの支点に妻が居る安堵 木村奈生美

【特選】

吊り橋で君との愛を確かめる 木村奈生美

■宿題 『外す』 互選

①外された一手信号赤になる 斎藤 蛙井

①役目下りホツとしながら秋の風 村上 昌子

①ワンテンポ遅い合の手リズム感 瀧尻 善英

②ネオン街少し外れてある穴場 佐藤まさあき

②ヒトの道外さぬように襟を立て 高田 幸柳

③補助車外して走る独り立ち 木村奈生美

③ストライク外すボールに秘策あり 福田 芳記

③言い過ぎて更迭ドミノ止まらない 磯島 雅男

◆十和田たてがみ川柳会12月句会案内◆

【時】12月16日(土)午前10時から 【所】十和田労働

福祉会館 【宿題】(各題三句詠)『ふてふてしい』久保

あざみ選／『含む』斉藤蛙井選 【互選】(一句詠)『不

器用』並日出席者のみ(句せんの裏に柳号記入) 【席題】

一題(三句詠・共選)／選者は、瀧尻善英ほか出席者

から一名【投句先】〒034-0212 十和田市米田字桜平 72 高田幸柳宛

「チャレンジ川柳！むさし流！」のブログはこちらから

The image shows a screenshot of a blog page titled "チャレンジ川柳！むさし流！". The page features a QR code and a photo of a man wearing a hat and glasses, holding a card. The text on the page includes "ブログ「FM青春チャレンジ川柳むさし流」" and "「チャレンジ川柳！むさし流！」のブログはこちらから".



## おかじょうき川柳社ウェブサイトからの投句について

現在、おかじょうき川柳社のウェブサイトは、サーバー移転のため、一部サービスが使用できない状況となっております。

みなさんがよく使用する「投句ページ」もすべて Google フォームへ移行して対応しています。

ただ、投句された方から、「画像認証がうまくいなくて投句できない」という声が多く寄せられています。これは、ロボットによる大量投稿を防ぐためのセキュリティとして行われています。

画像認証が出てくる人と出ない人がいますので、下記の方法をいくつか試してください。

### ①「Google Chrome」でウェブサイトを開く。

Android のスマホだと標準で「Google Chrome」となっているため「ロボットではありません」のチェックで済むようですが、iPhone は標準が「Safari」になっているため、画像認証が出てくるようです。**iPhone の方は、右の QR コードから「Google Chrome」をインストール**してみてください。



### ② Google アカウントを作成する

iPhone の「Safari」を使用している場合、**Google アカウントを作成してログイン**すれば、画像認証は出てこなくなります。Google アカウントを作成しておけば、いろいろなサービスがありますので、作ってみてはいかがでしょうか。



### ③画像認証を突破する

画像認証は右の例でいうと、9つのタイルから自動車が映り込んでいるものを**すべて選択**します。なかには、ギリギリに映り込んでいるものもありますので、注意が必要です。

ただ、**間違えても全然大丈夫**なので、それらしいものを選択して「確認」を何度か押してみれば突破できるはずですよ。



わかりにくい問題だった場合、ここで問題を変えれます

### □ 2024.01.15 第12回卑弥呼の里誌上川柳大会

【投句締切】令和6年1月15日(月) 消印有効【課題・選者】(各題2句・投句用紙ありコピー可)『自由吟』浪越靖政・大西泰世/『まさか』中前棋人・樋口由紀子/『ふわり』平川柳・鈴木順子/『積む』もりともみち・木本朱夏/『色』横尾信雄・赤松ますみ【参加費】1000円(切手不可)発表誌呈(令和6年4月初旬発送予定)【投句先】〒842-0103 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町大曲2426-2 卑弥呼の里川柳会 真島久美子宛 電話・FAX 0952-52-1061【賞】各題特選1句 有田焼/各題佳作5句 図書券(その他サプライズ賞)【主催】卑弥呼の里川柳会

### □ 2024.01.21 第88回新春川柳句会

【日時】令和6年1月21日(日) 席題発表午前10時(9時受付開始)【会場】弘前プラザホテル(弘前市代官町101-1 Tel 0172-35-0345 弘前駅より10分)【会費】5,000円【宿題と選者】(各題2句詠・共選) 投句拝辞\*採点 宿題・席題とも秀句3句=2点・佳作30句=1点『鍋』菊池京・三浦蒼鬼/『平凡』沢田百合子・むさし/『素晴らしい』北山まみどり・野沢省悟/『ガチャガチャ』熊谷冬鼓・長谷川酔月/『急ぐ』滋野さち・渡辺松風【席題と選者】(各題2句詠・共選)『 』岩崎真里子・田沢恒坊/『 』笹田かなえ・佐藤ぶんじ【我洲杯】(1句詠・5人共選)\*採点 秀句1句=2点・佳作15句=1点『旗』吉見恵子・工藤まさひろ・白川莫・佐藤雅秀・太田久【賞】宿・席題合点により1位に紗光杯、2位に寿久杯、他20位まで/我洲杯3位まで 宿泊希望の方は1月15日までに 〒036-8227 弘前市桔梗野3-3-3 千島鉄男へ Tel 0172-34-3392【主催】弘前川柳社【後援】弘前文芸協会

### □ 2024.03.29 '24 京都みんなの川柳誌上大会

【宿題(各題2句・未発表句に限る)】「線」岩田多佳子選(前年度優勝者・京都市)「そぞろ」齊尾くにご選(鳥取県)「北」浪越靖政選(江別市)「挑む」みつ木もも花選(敦賀市)「突く」むさし選(青森県)【投句締切】令和6年3月29日(金) 必着【投句用紙】規定の用紙をご使用下さい(コピー可)【投句料】1,000円(定額小為替または現金、切手は不可)【発表】6月に作品集を郵送【賞】各題特選句と秀句2句に呈賞。成績を合点し上位から誌上大会実行委員会賞、福知山市長賞、福知山市文化協会賞、京都新聞賞、京都川柳作家協会賞を贈呈【投句先・問い合わせ先】〒606-8306 京都市左京区吉田中阿達町18 シオン6 中野六助方 京都みんなの川柳誌上大会事務局あて TEL.090-7107-2006【主催】京都みんなの川柳誌上大会実行委員会【共催】京都川柳作家協会

■会費拝受【10月受付分】 ※太字は新会員

高橋星湖(むつ市) / **戎踊兵**(外ヶ浜町) / 辻井洋子(青森市) / 中村誠子(弘前市) / 村井規子(大鰐町)  
 / **嵯峨山登**(佐賀県) / 瀧村小奈生(愛知県)

■おかじょうき川柳社会員募集中！

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名：おかじょうき川柳社

→会費：6,000円(1年分)

おかじょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

**熊谷冬鼓** toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

(〒039-3502 青森市久栗坂字浜田 87-2)

終着駅 Sin

◆おかじょうき川柳社のウェブサイトも少しづつではあるが、修復している。特に要望が多かった川柳データベースも使えるようにしたので、活用してほしい。このデータベースも会員限定サービスにすべきか悩んでいるのだが、そもそも、データベースを始めたきっかけとして、故・杉野草兵さんが「川柳は類似句が多くて、盗作かどうかの判断が難しく困る」というボヤキからだ。日本全国までとはいかないが、おかじょうき川柳社で発表された作品ぐらひはデータベース化して、類似句のチェックに活用できるんじゃないかと始めたものであるから、会員限定にすべきか、社会奉仕のためにオープンにすべきか、というところである。各柳社が同じ意識を持って、作品のデータを一箇所に集められればいいのだが、なかなかデータですらないところも多いだろう。エクセルのデータがあれば、

簡単に登録出来るので、もしそういうデータを持っている方がいれば、一度、相談してほしい◆話は変わって、来年の7月6日、「川柳ステーション2024」の特別ゲストに暮田真名さん(東京都)をお呼びすることにした。最近、句集「ふりよの星」を出して話題になっているZ世代の川柳作家である。若いながらも川柳の講師も務めるなど、川柳の普及にも一生懸命な印象がある。どこの柳社も若い世代が少なくなっている状況で(もともと少ないが笑)、若い世代にとって、いまの現代川柳がどのように見えているかを知ること、川柳の魅力を訴求する点が見えてくるかもしれない。いまから非常に楽しみである。また、大阪のくじろうさんも「らくだ句会」の青森句会を次の日に開催するそうだ。いやはや、なんだか、騒々しい二日間になりそうである。遠方の方は今からご計画を(笑) ◆ Sin

おかじょうき川柳社 作品募集案内

□ 2023.12.13 「川柳吟行会 ぼ」12月句会

【投句締切】12月13日(第2水曜日)【題・投句数】『踊る』2句【投句・問合せ】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 \*それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。入選句・選評等は後日月刊おかげじょうきに掲載。メール交換できる方であれば、おかげじょうき会員以外でも参加可。年会費1,000円。



□ 2023.12.20 おかげじょうき会員雑詠集「無人駅」5句(2月号分)

【締切】12月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)【掲載】2/10発行号【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛



□ 2024.01.06 おかげじょうき川柳社本社1月句会

【時】1月6日(土)午後1時~【所】アウガ5階小会議室【投句締切】1月5日(金)15時【宿題】(各題3句詠)『カバー』『差』/『自由詠』【席題】1題3句詠・2人共選。選者は当日の参加者より選出【川柳ラボ】互選句『趣味』1句【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/【メールで直接送信投句】moriko@okajoki.com(守田啓子)



□ 2024.1.20 おかげじょうき会員雑詠集「無人駅」5句(3月号分)

【締切】1月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)【掲載】3/10発行号【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛



のないう街医療ミス現場で読んだ週刊誌誰ですか山手子に石を投げるのは行く先は決めたぞだ真ん中で歩くまぐわうやひたくれないに風を待つ街を出る小さな鈴をぶらさげて大停電やと心がが青い荷物着た裸電球ぽんと素顔吊される電話から秋のどしどし泣いてゆく着地せる人間風と手を切って水吞んで太陽蒼んで僕発芽七回窪んだままの母の床刺すなら鈍く光った短剣で時雨降る引つも流れない空マンスモスと共存する青い空泥の手で生きているよと空に云う天空へ反戦の迷まつしぐらかざりある空かも知れぬ梅を置き書き日石の石けん匂いかな満月に栓がある流氷の胎内いつも

が生まれそうでもちよと揺らしますだから黙ってフェリー埠頭に雪じとしていれば夕陽になれますか性愛や砧の音を引き摺って芳一の耳によく似た勳章だまばたきの時は永劫かも知れぬふい

く囁む指で引火を喰い止める折りがつくまで空は伏せておく指定の中のメロンパン髪も米も洗った後の日曜日教室に並ぶ偽物の椅子針箱のまだ騒がしい金ボタン二等辺三角形の不整脈糖

の鬼一匹作りの約束を破って君の砂を払い落とさしては雑草の顔生きてやせねん糸据えしたところ六法書堂いなこの闘いを終えてから機関銃はやめて花束持たない晴天の地球の無で

の子を包む漆黒になるまで撫でた涙盡くなくていく失ったもの色戦争の色に染め上げられて飢え生きた煙にやと色がつく濃くなっていく失ったもの色他動詞のように葬列やってくる無で

誰かが食べてくれている住みだした所に蜘蛛の巣を張るう訳あって禁止画像の中にある尾花ひだりは昨日から昨日と同じ量の米の木何んも雄である勝たまたくす木じゃ

ないことが残ったあきらめて中東あたり流れの木が見た時は並んでいる並木と刺の影も中にある昔花ひだりは昨日から昨日と同じ量の米の木何んも雄である勝たまたくす木じゃ

疵など無からうがダヴィンチの生まれ変わりの蟹に遭う田の中でカカシとめる僕は反応こころは可なりはひと皿の夜をつまんで生き延びる折り返し地点でもらう紙コップ雨続く

西アフリカの蝸である笑う吹けた隙のない真昼夢さめて二足歩行のカバネムを持ってわらわら後者のドアの音村の歴史にアザガカンゾウ土一探森から手紙しつと濡れて着く指先の汚れ

に気付くご焼香満月があるお笑う反対者が居ない水が飲しくて少年の日を釣っている冬のデモ隊の泣き声掛かると外は雨平凡な日に戻るなり家出願望の耳が落ちてそうで首首がきつて海を吐きそ

うだ栓抜きを探す途中の死の話吸って吐いて吸って吐いて「今度こそ」夜店の射撃で空を曲る鳥のため敵を撃つて鳴く鳥になるなんて大きなことを言う鳥はもう帰って耳の中のジャズ馬を生んだ

が更地になった夕焼け黄昏の鳥で混み合う神経科お魚を唾えて空を曲る鳥のため敵を撃つて鳴く鳥になるなんて大きなことを言う鳥はもう帰って耳の中のジャズ馬を生んだ

内緒で幻で家族みな夕焼け色の筆記体精米という空から空を曲る鳥のため敵を撃つて鳴く鳥になるなんて大きなことを言う鳥はもう帰って耳の中のジャズ馬を生んだ

わめられぬ月光があんな色の筆を通過中下弦上弦をたける小泉の歌の向う向うホイに負けましたうしくうしく日登くる花むらさきの下半身葬列の泣かなくてよい日の家路輪ゴムは

の帽子飛んでくる「これは鳥ですか?」「いいえ戦争です」端っこに墓地真ん中に無人駅鏡の軌の先に土まじりみじみとホルン映画で聴くショパン赤とんぼ殺してほしい日の家路輪ゴムは

ちん人でもなくなる時が来る倒木のまま排明もできぬ明星に死体を捨てた奴がいる夕陽の中切取の風は透明にふみ僕こけし根雪こけしの瞳だり絵の中で音階踏み外すあなた顔だ表札を照って

味増汁の味噌のどろりと老いてゆくキューレ舌がラ行になってゆく沢山のピロオド満ちてくる生きている何だろ次の方どうぞ絶頂の少し手前の貸金庫取線早く早くと唆す未使用の部分

顔を誰に見せようか口紅を塗られた遺書を書くために火葬場へ右へ右へと折れて行く丸の中辺にある腫瘍有線の新米をぎゅうぎゅう詰める欠茶碗目刺の主張訊きながらやあやあ

雨囀り描く駅の下には母の墓割れたのはコップじゃなく住む何もない掌に載せてみる秋の天子育ての方程式を愛で解くろくじゅう三文判の意思表示結納の見本に哭いた跡がある適切なお返事が

略囀り描く駅の下には母の墓割れたのはコップじゃなく住む何もない掌に載せてみる秋の天子育ての方程式を愛で解くろくじゅう三文判の意思表示結納の見本に哭いた跡がある適切なお返事が

大きくなマシマロにあのひとのさみしい場所やと住む何もない掌に載せてみる秋の天子育ての方程式を愛で解くろくじゅう三文判の意思表示結納の見本に哭いた跡がある適切なお返事が

冬が来ると着る補綴器を外すと父は神に於ける報復の種物を狙って日丸の真ん中辺にある腫瘍有線の新米をぎゅうぎゅう詰める欠茶碗目刺の主張訊きながらやあやあ

手子に捨てられよう春の月指先が流れる桃に届かない仁王門さくら吹雪さくら吹雪舞踏の貌で舞台の袖に居るキスをするキスをするキスをするキスをするキスをするキスをする

がもめている見逃した男に羽根があることをシナモンはお嫌い?左ばかり見てクリムトのいちすいちは沼の底小児病棟のベンから咳が洩れてくる父さん帰ろう喪主が欠伸した一本の棘が背中

涙鏡に替えてみる鮫鱈の皮剥く力書くカスミ草秘ごとだって老化するスパーのレシートに飛ぶカカメ削除キー叩いて忘れて忘れたい底とよの静かな位置に佇たされるトッポ羽化する

露丸ひょうたんのびんしんと銀河老人の海をながめているらう毛父の煙火の音船の進む音はふるさと死ぬまで浮標を吐いている対岸の村も貧しく陽を浴びる入れ墨の花にお水やりする

さいじハードへ純ちゃんラッパ鳴り響く燃えるもの傘寿蔵父にひとつある髪をすく指先ふと触れる鬨やがて陣痛がはじまる試験管分水嶺右も左も人の世で十ワットだが僕だけの自尊心生きてゆく

ページに朝の茸汁下蓋におおわれている仮眠紙いっぱい行き先だけの走り書きカサブランカダンディ三步前進する化石ペンラディンの陰毛に降る雪かしら病院の廊下に落ちている「しかし」



2023年12月10日発行(年12回発行) 第27巻12号通巻357号  
●発行人/むさし●編集/Sin●発行/おかじょうき川柳社●表紙題字/金子榮風  
青森県東津軽郡外ヶ浜町字蟹田中師宮本2の3 ●E-Mail:info@okajoki.com

おかじょうき川柳社  
http://okajoki.com/